



共感してもらえる安心感を

校長 浮ヶ谷 優美

夏休みは、学校で学習したことを日常生活のなかで自律的に実践する「力試しの機会」でした。いかがでしたでしょうか。少しでもがんばれたことは大いにほめて、「やればできる」という自己肯定感を育み、次の挑戦へつなげていきたいですね。長い夏休み中のご家庭の奮闘、本当にお疲れさまでした。

さて、ある保護者の方が、子育ての悩みに日々向き合うつらさを語ってくれました。『大切に育ててきた我が子が、成長するにしたがって、いつの間にか親に背を向けるようになる。反抗的な態度は思春期に向かう成長のあかしであることを理解しつつも、我が子のそっけない態度が悲しい。時には無視されたり暴言を吐かれたりすることもあり、気持ちが折れそうになる。悩んだり苦しんだりしつつ、子育てをがんばっているのに、誰からもほめられ認められることもなく、苦しさ募る。子育ての悩みを抱えている親は少なくないはず。だからこそ、その苦しさを共感し合える親同士のつながりがほしい。』というお話でした。

報われない思いを抱くことは、子育てに関わる多くの人が経験することかもしれませんが、私は校長としてそうした保護者の悩みや苦しさに共感し、寄り添うことができていたであろうかと自問自答し、不十分であったことを深く反省しました。

この話を教員に話したところ、保護者への見方が変わったと話してくれた人もいました。その後、保護者との面談時に「お母さん、本当によくがんばっていますね。」と言い添えましたという報告や、これからは連絡帳に保護者への応援メッセージを添えますと言っていた人もいました。

一筋縄ではいかない子育てや教育指導・支援に奮闘する親と教員が、「同志」として互いに励まし合い、協力関係を築いて連携を深めていける学校にしていきたいと強く思いました。愚痴をこぼし弱音を吐き、共感してもらえる仲間がいるところに安心感があります。子ども、教員、保護者、皆が相互に共感し合い、安心してのびのびと生活できる関係づくりを皆様と共に進めていきたいと思ひます。今年度は夏休み明けの9月に保護者会を再設定しました。昨年度から積み重ねてきている保護者会の学級懇談の機会を生かし、日頃胸にしまっていることを互いにぎくばらんに交流することを通して、子どものよりよい成長を願ひ奮闘する同志として、しっかり手をつないでいきましょう。

【学校運営協議会】＋【学校支援本部】＋【PTA】＋【教員】 合同研修会の実施

7月27日(月) 10:00～11:00 視聴覚室にて、学校運営協議会委員7名、学校支援本部(兼務3名)、PTA(兼務6名)、教員(26名)の合同研修会を行いました。最初の5分間で参加者全員がペアをかえながら、自己紹介や夏休みに楽しみにしていることを伝え合い、交流会の場をあたためました。その後、8グループに分かれ4～5人で、意見交流を目的として『運動会 これからの方向性』について30分程、着順判定、分割入場、競技内容、運動会の名称等々、様々な視点について地域・家庭・教員それぞれの思いを伝え合って相互理解を深めました。参加者から、「地域・家庭・学校が一堂に会してこのように話し合いをする場は貴重な機会であり、回数を増やして定期的に開催してほしい。」という提案が出されるなど、『共育』の実現に向けたさらなる対話の機会の創出の必要性を実感した取組となりました。